

2024年2月

2023年度 やまのこ保育園自己評価について

社会福祉法人わかすぎの森
理事長 岡田健一

■はじめに

保育園運営の基本となる「保育所保育指針（2017年改訂）」では、「保育所は、保育の質の向上を図るため、保育の計画の展開や保育士等の自己評価を踏まえ、当該保育所の保育の内容等について、自ら評価を行い、その結果を公表するよう努めなければならない」（第1章第3節(4)保育内容等の評価）とされています。

これを受け、やまのこ保育園では、職員が自らの業務を振り返る自己評価と、園児の保護者にご意見をいただくアンケートを実施し、その結果を踏まえて、保育所全体の自己評価を作成しました。保育園の情報公開の一環として結果をWebページに掲載いたします。

■自己評価の項目と評価について

やまのこ保育園の自己評価の評価項目（次ページ以降の表参照）は、「保育所保育指針（2017年改訂）」に基づいたものになっています。指針に書かれている内容を評価項目にする際には、社会福祉法人けいわ会さんが作られた自己評価も参考にしました。

それぞれの評価項目について、A評価（概ね満たしている）、B評価（さらなる改善が必要）、C評価（問題がある）の3段階で評価しており、B評価とC評価にはコメントをつけています。



イラスト：ふわふわ。り

■保護者アンケートの結果について

より子どものためになる園を目指し、園児の保護者にアンケートを実施しました。お尋ねしたのは、1) 今後に向けて改善を希望する点と、2) 今ある良い点・継続して欲しい点の2点です。自己評価の一環として、ご意見とコメントを掲載いたします。

1) 今後に向けて改善を希望する点

no	いただいたご意見	園からのコメント
1	駐車場が停めにくいので、ロープを張り替えていただきたいです。	ご意見ありがとうございます。ホール横の駐車場につきましては、駐車位置を示すロープを付け替える予定です。年度内には作業を終えたいと思います。
2	ホール横の駐車場の線（ロープ）が切れているところもあり止めにくいので新しくしてほしい	
3	お掃除もして下さってますが廊下に屋根から雨漏り？しており靴下が濡れるので対策してほしい	ご迷惑をおかけしてすみません。秋から冬にかけて、園庭等からの水蒸気が屋根に結露し、それが落ちてきて廊下が濡れます。園舎建て替えなどで開放型の廊下をやめないかぎり、対策は困難な状況です。一番濡れるてんとうのお部屋への渡り廊下にはスリッパを用意していますので、ご利用ください。
4	本来なら園が行う環境整備の仕事を、係活動として土曜日に園に出てきて行っても、その次の送迎時に何も言われないことが多い。お礼が欲しいわけではないが、職員間で情報が共有できていないのか心配になる。職員の負担が多くて大変なのは重々承知しているが、保護者も園児のために仕事の休日を使っていることをご理解頂きたい。	子どものために貴重な休日の時間を使っていたのに、不快なお気持ちにさせてしまい申し訳ありません。いただいたご意見を職員の中で共有すると同時に、どなたが来てくださったのかクラス担任をはじめとする職員に伝わるよう環境整備係の仕事を見直します。今後子どもに最適な環境づくりのためご協力をいただければ幸いです。
5	喧嘩で怪我などがあつた場合、手を出してしまった方の親にもちゃんと話をしたい。	ご意見ありがとうございます。原則、怪我をさせてしまったお子さんの保護者にもお話するようにしています。うまくできていなかった事例もあったことを職員で共有し、再確認します。

2) 今ある良い点・継続して欲しい点

no	いただいたご意見	園からのコメント
1	悩みや困っていることを相談すると先生方が一緒に考えてくださり、プロのアドバイスももらえて本当に心強いです。マイペースな息子にも寄り添って指導して下さってありがとうございます。先生方には感謝感謝の毎日です。	ご意見ありがとうございます。今後も一人一人の子どもを大切にできる園、保護者さんからの相談を親身に受けることができる園であり続けたいと思います。
2	いつも親切丁寧な対応でありがたいです。	
3	子供を主にした保育。簡単ではないと思うが、大人目線ではなく子供の目線を大事にした保育がやまのこらしさだと思う。	

■やまのこ保育園 2023年度自己評価

評価：A概ね満たしている、Bさらなる改善が必要、C問題がある（B,Cにはコメントあり）

大項目	小項目	やまのこ保育園 評価項目	評価	コメント
保育所保育に関する基本原則	保育所の役割	子どもの最善の利益を考慮し、最もふさわしい生活の場になることが役割だと理解している	A	
	保育の目標	子どもが現在を最も良く生き、望ましい未来をつくり出す力の基礎を培うことを目指している	A	
	保育の方法	子どもが安心感と信頼感をもって活動できるよう、一人一人の発達過程に応じた保育を心がけている	A	
		子どもの主体的な活動や子ども相互の関わりを大切にしたい保育を心がけている	A	
	保育の環境	安全を確保すると同時に、子どもの生活が豊かなものとなる環境づくりを行なっている	C	地震や火災を想定した避難訓練を毎月行っているが、給食やお昼寝の時間の避難訓練は行っていない。災害を想定した図上型訓練や散歩時の人数確認の徹底など、できることを検討する。
	社会的責任	子どもの人権を理解し、一人一人の人格を尊重した保育を行なっている	A	
個人情報等を適切に扱うとともに、保護者の苦情に対し解決を図るよう努めている		A		
養護に関する基本的事項	養護の理念	養護（生命の保持・情緒の安定）と教育（健康・人間関係・環境・言葉・表現の5領域）を一体的に行うことを意識した保育を行なっている	A	
	生命の保持	一人一人の健康状態や発達状態を把握し、異常に気付くことができる	A	
		生理的欲求が満たされ、子どもが意欲的に生活できるよう適切に援助している	A	
	情緒の安定	子どもの気持ちを理解し、応答的な触れ合いや言葉がけを行なっている	A	
		子どもの気持ちや意見を尋ねるなど、主体性と自己肯定感を育む保育を行なっている	A	

■やまのご保育園 2023年度自己評価

評価：A概ね満たしている、Bさらなる改善が必要、C問題がある（B,Cにはコメントあり）

大項目	小項目	やまのご保育園 評価項目	評価	コメント
保育の計画及び評価	全体的な計画の作成	保育の内容が組織的・計画的に構成された全体的な計画を立て、職員で共有している	A	
	指導計画の作成	指導計画の作成にあたっては、一人一人の発達過程や生活の連続性・リズム、季節性等に配慮している	A	
		障害のある子どもが他の子どもとの生活を通してともに成長できるよう、指導計画の中に位置付けている	A	
		子どもの実態や状況の変化に即して、保育の内容の見直しや改善を行っている	B	振り返りや見直しは行っているが、日々の保育に時間とエネルギーが費やされるため、十分に活用されていない。気づきと改善点ための視点をさらに高める必要がある。
	保育内容等の評価	職員の自己評価等を踏まえ、保育所の自己評価を行い、結果を公表している	A	
	計画の改善	計画・保育・評価・改善という一連の取組を進め、保育の質の向上を目指している	B	計画実施後の振り返り（評価）をさらに丁寧に行う必要がある。
幼児教育を行う施設として共有すべき事項	資質・能力	育みたい資質・能力として、1) 知識及び技術の基礎、2) 思考力・判断力・表現力等の基礎、3) 学びに向かう力・人間性の3つがイメージできている	B	自己研鑽と、望ましい保育者集団についての学びを深める。
	育って欲しい姿	「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を理解し、保育を行なっている	A	
		離乳食については、家庭やクラス担任・給食職員と連携をとりながら、一人一人の子どもの状況に配慮して行っている	A	
		一人一人の生活リズムに合わせて、睡眠をとることができるように静かな空間が確保されている	A	
		特定の保育士との継続的な関わりが保てるよう配慮している	A	

■やまのこ保育園 2023年度自己評価

評価：A概ね満たしている、Bさらなる改善が必要、C問題がある（B,Cにはコメントあり）

大項目	小項目	やまのこ保育園 評価項目	評価	コメント
乳児保育に関わるねらい及び内容	基本的事項・ねらい・内容・配慮事項	午睡中は体を仰向けにすることを認識して、体温、顔色、呼吸の安全チェックをしている	A	
		生活や遊びの中で、音・形・色・手触りなどに気づかせてさまざまなものに触れさせている	A	
		上体を支え足の動きを促すなど、遊びを通して身体発達の援助を行っている	A	
		オムツの交換、授乳などのサインを見逃さず受け止め対応している	A	
		発声や喃語等を優しく受け止め応えることで、言葉の理解や発語の意欲を育てている	A	
		誤飲、転倒など重大事故につながらないように安全環境に配慮している	A	
	健康	生活リズムについては、一人一人の子どもの状態に合わせて対応している	A	
		走る、跳ぶ、登る、押す、引っ張るなど全身を使う遊びを取り入れている	A	
		楽しい雰囲気の中で自分で食べようとする気持ちを大切にしている	A	
		身の回りを清潔に保つ心地良さを感じ、その習慣が少しずつ身につくように援助している	A	
		子どもが自分で衣服を着脱しようとする気持ちを尊重している	A	
		一人一人の排泄状況に応じた配慮をしている	A	
	人間関係	保育士等との安心したかかわりの中で、園生活を送れるようにしている	A	
		他の子どもとの関わり方を少しずつ身につけられるよう仲立ちをしている	A	

■やまのこ保育園 2023年度自己評価

評価：A概ね満たしている、Bさらなる改善が必要、C問題がある（B,Cにはコメントあり）

大項目	小項目	やまのこ保育園 評価項目	評価	コメント
1歳以上3歳未満児の保育に関わるねらい及び内容		自分の思いを伝えたり、相手の思いに気づいたりする経験を重ねていけるよう援助している	A	
	環境	玩具や遊具は安全で、子どもの興味や発達に合った物を選び使用させている	A	
		積極的に戸外遊びを取り入れて身体の発達を促している	A	
		見る、聞く、触れるなど感覚の働きを豊かにしている	A	
	言葉	楽しい雰囲気の中で保育士等との楽しい言葉のやり取りができるようにしている	A	
		絵本の読み聞かせや紙芝居などを積極的に取り入れている	A	
	表現	水、砂、土、紙、粘土などさまざまな素材に触れて楽しませている	A	
		音楽、リズムなどに親しみ、歌や手遊び、全身を使う遊びを取り入れている	A	
		子どもの表現をしっかり受け止め、共感している	A	
	実施に関わる配慮事項	体の状態、機嫌、食欲など日常の状態の観察を十分に行うことで感染症を予防している	A	
		事故防止に努めながらさまざまな遊びを取り入れている	A	
		進級などで保育士が変わる場合は、子どもの発達に留意し職員間で協力して対応している	A	
	健康	生活に必要な基本的な習慣や態度が身につくよう保育している	A	
食べる喜びや楽しさを味わいながら、食べ物への興味や関心を持てるようにしている		A		

■やまのこ保育園 2023年度自己評価

評価：A概ね満たしている、Bさらなる改善が必要、C問題がある（B,Cにはコメントあり）

大項目	小項目	やまのこ保育園 評価項目	評価	コメント
3歳以上児の 保育に関する ねらい及び内容		十分に体を動かす気持ち良さを体験し、自ら体を動かそうとする意欲が育つよう援助している	A	
		園内外の危険な場所を知り、安全に気をつけて遊ぶように働きかけている	A	
	人間関係	友達と共通の目的を見つけたり、遊びを一緒に工夫、協力して共に達成感が味わえるよう働きかけている	A	
		良いことや悪いことがあることに気づき、考えながら行動できるように援助している	A	
		友達と生活する中できまりの大切さに気づき守れるように配慮している	A	
		生活や遊びの中で、意欲を大事にして頑張ろうとする力、自信、自己肯定感を持てるような言葉かけや援助をしている	A	
		身近な友達との関わりを通して、相手を思いやり譲り合う気持ちを持てるように援助している	A	
	環境	園生活の中で、数量や図形、文字に触れる機会を取り入れている	B	ひらがななどの小学校以降の教科学習の内容を先取りするより、からだ作りや自尊感情、感性を育てる方針だが、遊びの中で自然と数の概念や図形、文字に触れることを今よりも意識したい。
		伝統行事や異なる文化に触れる機会を作っている	B	七夕、どんどやき、節分、ひなまつり（お茶会）などの伝統行事に取り組んでいるが、異なる文化（外国文化、多数派でない人の生活など）に触れる機会は少ないため、今後増やしていきたい。
		自然と直接触れ合う遊びを季節に合わせて取り入れている	A	
			人の話を聞くことができ、日常生活に必要な挨拶や会話を身につけさせている	A

■やまのこ保育園 2023年度自己評価

評価：A概ね満たしている、Bさらなる改善が必要、C問題がある（B,Cにはコメントあり）

大項目	小項目	やまのこ保育園 評価項目	評価	コメント
	言葉	絵本や紙芝居などを通して、物語の楽しさや言葉のおもしろさに気づくよう心がけている	A	
		子どもが自分の体験や要求を自分なりに表現できるように配慮している	A	
	表現	音楽に親しみ、歌を歌ったり、踊ったり、リズム楽器を作ったりする楽しさを味わう機会を作っている	B	音楽に合わせて体を動かすさくらんぼリズム以外にも、季節の歌を歌うなどの活動は行っているが、歌やリズムを楽しむという点では、さらなる取り組みが必要。
		一人一人の子どもの表現の過程を大切にし、自己表現を楽しめるよう心がけている	A	
	実施に関わる配慮事項	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を理解し保育にあたっている	A	
保育の実施に関して留意すべき事項	保育全般に関わる配慮事項	子どもの心身の発達及び活動の実態などの個人差を踏まえ、一人一人の気持ちを受け止め援助している	A	
		性別による固定的な役割意識（例:男の子は青色）など、少数派を苦しめる固定観念を植え付けることがないように、配慮している	A	
	小学校との連携	子どもに関する情報共有に関して、就学に際して保育所児童保育要録を作成している	A	
	家庭及び地域社会との連携	実習生や職場体験など、地域の人々を受け入れている	A	
子どもの健康支援	健康状態/発達状態の把握	子どもの健康状態・発達状態を継続的に把握し、適切な対応を図っている	A	
	健康増進	健康診断と歯科検診を行い、結果を保護者に伝えるとともに、保育に活用している	A	
	疾病等への対応	保育中の体調不良や傷害に対して、状況に応じて保護者に連絡するとともに、普段から救急用の薬品などを準備して備えている	A	

■やまのこ保育園 2023年度自己評価

評価：A概ね満たしている、Bさらなる改善が必要、C問題がある（B,Cにはコメントあり）

大項目	小項目	やまのこ保育園 評価項目	評価	コメント
	疾病等への対応	アレルギー疾患を持つ子どもに対し、保護者・医師・職員が連携し、適切な対応を行なっている	A	
食育の推進	保育所の特性を生かした食育	意欲を持って食に関わる体験を積み重ね、「食を営む力」を育てることを支援している	A	
	食育の環境の整備等	子どもが自ら栽培・収穫・調理するなど、食に対する意識が高まる支援をしている	B	食育の一環として調理を行う機会を設けているが、栽培・収穫については、さらなる取り組みが必要。
環境及び衛生管理並びに安全管理	環境及び衛生管理	子どもが過ごしやすいよう、温度、湿度、換気、採光、音などの保育環境に配慮している	A	
		園内の清掃が行われ、子どもが清潔で心地良く過ごせる環境が維持されている	B	危険な物は使用しない、子どもの手の届くところに置かないなど意識しているが、製作後などに室内や裏テラスが散らかることがある。また、施設面で釘が出てきたりなど、改善が必要。
	事故防止及び安全対策	怪我や事故の状況、ヒヤリハット場面を職員で共有し、再発防止に努めている	A	
睡眠、水遊び、食事などの場面で重大事故が発生しやすいことを踏まえ、事故防止に努めている		A		
災害への備え	施設・設備等の安全確保	定期的に防火設備の点検や避難経路等の安全を確認している	A	
	災害発生時の対応体制及び避難への備え	さまざまな災害を発生に備え、対応手順を整理し、避難訓練を行っている	A	
	地域の関係機関等との連携	地域の関係機関と連携を図り、必要な協力が得られるよう努めている	B	大雨時対応については、現在は金出公民館への避難となっている。しかし、収容人数・移動手段の点で不安が残る。篠栗町役場とも協議をしているが、まだ見直しできていない。
保育所における子育て支援	保育所の特性を生かした子育て支援	保育士の専門性や保育所の特性を生かし、保護者が子育ての喜びを感じられる保護者支援を行なっている	B	全体の様子はお便り等で伝えているが、個別の子どもの様子については、お忙しい保護者の場合に降園時に十分に話す時間が取れないこともある。

■やまのご保育園 2023年度自己評価

評価：A概ね満たしている、Bさらなる改善が必要、C問題がある（B,Cにはコメントあり）

大項目	小項目	やまのご保育園 評価項目	評価	コメント
に関する基本的事項	子育て支援に関して留意すべき事項	保護者や子どものプライバシーを保護し、知り得た事柄の秘密を守っている（虐待など除く）	A	
保育所を利用している保護者に対する子育て支援	保護者との相互理解	園だより・クラスだより・連絡帳・送迎時の談話等を通して、保育の意図を説明している	A	
		送迎時の談話や連絡帳、面談等を通して、保護者の想いの理解に努めている	A	
	保護者の状況に配慮した個別の支援	家庭の事情や子どもの特性に合わせ、必要に応じて個別の支援を行っている	A	
	不適切な養育等が疑われる家庭への支援	保護者の不安が強い場合や不適切な養育が見られる場合は、職員内で情報を共有し、必要に応じて他機関とも連携を行うようにしている	A	
	地域に開かれた子育て支援	地域の保護者等に対して、保育所の専門性を活かした子育て支援を行っている	A	
職員の資質向上に関する基本的事項	保育所職員に求められる専門性	保育所職員として求められる倫理観、人間性、並びに職務の理解と責任を自覚している	A	
		職員としての専門性を高めるため、必要な知識および技術の修得・維持・向上に努めている	B	キャリアアップ研修等の外部研修を受講している職員も多いが、仕事や家事で余裕がない職員もいる。職員としての専門性を保障するため、園内研修の充実も必要。
		正確・迅速な報告・連絡・相談を実践している	A	
		子ども・保護者・職員の尊厳に配慮し、丁寧に接するよう努めている	B	保護者会活動として土曜日に園庭整備をさせていただいているが、その時に来ていただいた保護者さんの情報がうまく共有できていないことがあった。園の子ども達のために保護者が休日の時間を割いてくださっていることを再度共有し、より丁寧な対応を心がけていきたい。

■やまのこ保育園 2023年度自己評価

評価：A概ね満たしている、Bさらなる改善が必要、C問題がある（B,Cにはコメントあり）

大項目	小項目	やまのこ保育園 評価項目	評価	コメント
施設長の責務	施設長の責務と専門性の向上	保育所の役割や社会的責任を自覚し、法令等を遵守するとともに、保育の質および職員の専門性向上に努めている	B	保育の質・職員の専門性向上については、さらなる取り組みが必要
	職員の研修機会の確保等	職員の専門性向上のため、体系的・計画的な研修機会の確保に努めている	A	
職員の研修等	職場における研修	保育の質の向上を図るため、施設内研修を行っている	B	気になる子どもの理解促進や関わりの工夫についての定例検討会は行っているが、それ以外のテーマについての施設内研修の機会は乏しかった。